

巻頭言

焦らず、じつくりと

会長 能村研三



真木

第 196 号

〒260-0852
千葉県中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-225-7115

〒299-1143
君津市君津台 2-8-4
石井紀美子方
「真木」編集部
TEL 0439-52-6254

目次

Table with 2 columns: Item Name and Page Number. Includes items like '巻頭言 焦らず、じつくりと' (1), '第六回千葉県俳句大賞決まる' (2), etc.

新年明けましておめでとうございます。
新型コロナウイルスの感染が地球規模で拡大する中で、新しい年を迎えることになりました。
昨秋の千葉県俳句大会も会場を使つての大会の開催は出来ず、文音による大会となりました。
私たちが志向する俳句の世界は昔から「座」の文学とも言われているように、人の和をもつて始まり、和をもつて終わるとされています。お互いに膝を交えることで、お互いの詩情を誘発して句が生まれるのであります。したがって、コロナ対策で言われる「三密」とは自ずと矛盾するものであります。やはり私たちの健康が第一であり、コロナが終息するまでは皆さまお一人お一人が、新型コロナウイルスの感染防止や拡大阻止のためにできることを今一度確認して、コロナ禍を共に乗り越えて頂きたいと願っています。
先行きの見えない日々で、句会や吟行会にも出かけられず我慢が続きますが、こんな日々であるからこそ、今までの貴重な経験を今一度思い起し詩心を膨らませながら作句を続けていた、だきたいと思ひます。

今年は丑年です。夏目漱石が門下生であった芥川龍之介と久米正雄にあてた手紙の一節に、「焦らず、深く考え、根気よく問題に対処する」ことに徹しようといふことを励ましています。とかく焦って急いでしまふ私たちにとつて、大切なものを見逃さないためにも必要な考え方であると思ひます。
歴史を振り返ると奈良時代にも疫病があつたように、『続日本記』『正倉院文書』に天然痘の蔓延の叙述があり、三年に及んだ天然痘で当時の人口の五分の一、一〇〇万人が亡くなったと、東大寺大仏の建立は疫病克服の祈りの証しだとも言われています。
昨年はコロナ禍の中ではありましたが、五年ごとくに発行する『合同句集』第十集が刊行されました。会員一六二名の珠玉の作品が掲載されており、外に出かけられない今でこそ、じつくりと読み込んでいた、だきたいと思ひます。
コロナウイルスの感染を防ぐには、もうしばらくの辛抱が必要であると思われまふ。協会の皆様にはポジティブな気持でこの難関と向き合つていかなければならないと思ひます。

第6回千葉県俳句大賞決まる

千葉県俳句作家協会では千葉県内に居住する作家が、毎年十二月一日より翌年の十一月末日までに刊行された句集を対象に「千葉県俳句大賞」を設定し表彰を行っている。作品は自薦・他薦を問わず、また当協会に加盟の有無も問わず、選考事務局に送付された全句集が対象である。

本年は十冊の応募があり、それぞれの作家にその句集より二十句の自選をいただき、それを前もって選考委員に配布、検討を依頼した。昨年十二月十九日、コロナ騒動の真只中、充分に感染予防のうえホテル「プラザ菜の花」に於いて選考会を開催、六人の選考委員（うち二人は書面参加）が真剣に討議を重ね、左記の通り本年度の受賞句集が決定した。本年は大賞に二名、それに例年の奨励賞に代り作者のこれまでの功績を重ね合わせ特別賞が設けられるなど、一冊一冊の洗練された各句をさまざまな角度から熱の籠った検討がなされたことを付記しておきたい。

◎第六回 千葉県俳句大賞

句集『こなひだ』 高橋道子

ふらんす堂 (二〇二〇年五月刊)

句集『心音』 増田善昭

玉藻社 (二〇二〇年十一月刊)

◎第六回 千葉県俳句大賞 準賞

句集『真水のように』 下村洋子

本阿弥書店 (二〇二〇年八月刊)

◎第六回 千葉県俳句大賞 特別賞

句集『あるがまま』 小倉英男

角川書店 (二〇二〇年十一月刊)

選考委員は俳人協会・現代俳句協会・伝統俳句協会の三団体で当協会所属の作家たち。それぞれの協会の枠を超えた真剣な討議の場である。更に広く県内の俳人の功績を顕彰してゆきたく、来期も奮つての皆様に応募を期待している。

選考委員 塩野谷 仁

選考委員

能村研三

増成栗人

三枝かずを

塩野谷 仁

秋尾 敏

村上喜代子



俳句大賞選考会

大賞



句集『こなひだ』

高橋道子 自選二十句

千葉市在住。「鴨賞」受賞、「鴨」俳句会代表。俳人協会幹事、千葉県俳句作家協会会員。昭和十八年千葉市生れ。

たとへばと視線走りぬ秋灯下	こは夢と思ひつつ夢曼殊沙華
長月の水流すとき遺句よぎる	青年の雌伏を包め革コート
おぼろ夜の保育器宇宙船に似る	寒満月この世が異界かもしれず
花どきや都心といふも山と谷	玫瑰や雲を引つばる紺怒濤
嫂と花冷の卓拭き合へり	影からめとりたる日傘坂上る
桜二分水かげろふの銀閣寺	瓜揉んで節電説かぬ世を怖る
父母のゐるかのやうに朝寝せり	半世紀前はこなひだ秋扇
立葵いまも平屋に兄夫婦	略図には無し松の木も秋風も
水積んでくづして秋の噴水よ	木の実落つ思ひあたるといふやうに
あぢさるに初めの色をつける風	読初めは読聞かせ初め昔むかし

大賞



句集『心音』

増田善昭 自選二十句

千葉県在住。「ホトトギス」同人、「玉藻」同人。日本伝統俳句協会会員、千葉県俳句作家協会会員。千葉大学名誉教授、習志野第一病院理事。昭和十一年青森県生れ。

母と居て十一月のすぐそこに	列車いま夏野の音となり走る
縁側の曲がり具合の涼しさよ	生まれ来し黒そのままに夏の蝶
水替へて金魚の影の濃くなりぬ	梅雨の夜の電車みな膝泳がせて
嶺々の低きところに山桜	一雨去り一雨来て滝漲れる
大寒とならねば見えぬものもあり	せめてもの風なき空や散紅葉
母訪へば母籐椅子に所在なげ	秋の蚊の動かぬ暑さ祠石
呼ばれるて初秋の風の音かとも	春の雨心曳きずりながら旅
秋雨に濡れて平たき庭の石	一集落一集落の盃蘭盆会
人の世を一步踏み出し紅葉散る	山に向き山を仰ぎて耕せる
囀の中の一羽の声を追ふ	鳥雲に入りて眩しき堂庇

準賞



句集 『真水のように』

下村 洋子 自選二十句

鎌ヶ谷市在住。「遊牧」同人。千葉県現代俳句協会幹事、千葉県俳句作家協会会員。共書『現代俳句を語る』。昭和十七年長野県生れ。

姉追いてすずなずしる橋渡る
地の塩となれぬおんなに霏れり
啓蟄の柔らかい水買いに行く
途中まで牡丹でありし家系かな
病蛸うすく灯りて水底へ
緑蔭や白長須鯨見たと云う
ある夜から小さな蛇と同居せり
白桃の全き重さにたじろぎぬ
あだし野の骨片なりし月見草
わが影の上に影あり十三夜
十五夜の真水のように服纏う
十六夜のおんなは月の際に寝る
白桔梗雨月物語より現るる
芭蕉庵萩見る我も過客なる
哀しみの触れてはならぬ一位の実
夫逝く星を碎きし霜降りる
小寒の何も無い空抱きしめる
わが飢えと同じ眼をしてゆりかもめ
口笛と見知らぬ春がそこに居た
涙腺をたどりて行けば罌粟の花

特別賞



句集 『あるがまま』

小倉 英男 自選二十句

船橋市在住。「春嶺社」主宰・現在特別顧問。俳人協会名誉会員、俳人協会千葉県支部顧問。句集『壺天』、文學の森大賞受賞、『乾坤』『磐座』他。昭和三年習志野市生れ。

海境に光芒走り初日出づ
春昼東日本大地震の天変地異の大地震
炎天をゆく舌下錠首に吊り
幻日の現れあクリスマス寒波来る
風立ちて仮寝より覚む白木槿
冬ざれや炎象かたどる殉教碑
列をなし卯波とどろく九十九里
北風きたに耐へ樅は大樹に開拓地
勿来なよりみちのくへ入る遠郭公
冬の濤なみ海蝕洞を噴き激ち
駒返春嶺七〇〇号祝賀会る草や九十の志
腕を組妻救急車入院み大合唱す花の宴
九十は天妻マスキの妻の応へず雲の峰与の齡花に酌む
白南風意識障害と診断されるや意識戻りし妻片言
曾孫のこたびは姫や遊蝶花
ベッドより落ち吾れを呼ぶ春の闇
傾眠妻、施設に入所の妻よ目覚めよ若葉晴
施設の妻命愛しめよ半夏生
あるがまま九十を生きむ冬銀河

第六回千葉県俳句大賞選評

大賞句集『こなひだ』選評

能村 研三

今回の千葉県俳句大賞を受賞された句集『こなひだ』は高橋道子さんの第一句集で、四十余年の句作をまとめられた句集である。伊藤白潮先生に師事して二十五年、「句集は自らの句の反省するため出すものだ」という考えの中で出された句集であると後記で述べておられる。

水積んでくづして秋の噴水よ

半世紀前はこなひだ秋扇

木の実落つ思ひあたるといふやうに

俳句という限りない小宇宙の奥深さの中に、日常からの平明な言葉で詩を掴み出し柔軟で、構えない作者の個性が窺える句にまとめられたのはすばらしい。

大賞句集『心音』選評

三枝 かずを

著者は医学博士、千葉大学名誉教授。若くして加賀谷凡秋門で学んだ萩原季葉・村山さとしの系譜を継ぐ人である。句集名『心音』は医学者が聴診器で初めて学ぶ心臓の拍動の音。心臓内科の権威が初心を忘れぬようにこの題名とした。謙虚なお人柄でありながら、学生時代から俳句の才能は抜群であった。句集は平成十五年から『玉藻』誌で学んだ作品を掲載した。季題を中心とする正統な伝統俳句であり、平明な表現の奥に言外の深みを感じられる。故郷青森と現吟行地上総の景が交錯しながら詩情を秘めた余韻が伝わってくる。

盆唄と三味の競ふや津軽の夜

鳥雲に入りて眩しき堂庇

準賞句集『真水のように』選評

塩野谷 仁

下村洋子さんは生来の抒情体質の人である。俳歴はおよそ三十年に及ぶことになるが、一貫してその姿勢に変わりはない。真摯にこの詩形に関わってきたことを多としたい。その成果の一端を示すとなれば以下の作品群になろう。

たましいのはぐれたあたり芥子の花

夫逝く星を砕きし霜降りる

哀しみの触れてはならぬ一位の夷

いわゆる現代俳句系に属する作品だが、その表現に難解な部分はなく、むしろ自分の心情を素直に表す手法に長けている作家で、その心象風景は注目に値する。今回の受賞を機に、今後の一層の成長を期待したい作家の一人ではある。

特別賞句集『あるがまま』選評

増成 栗人

著者・小倉英男氏は俳人協会名誉会員、「春嶺」特別顧問。富安風生・岸風三樓に師事した長い俳歴を持つ作家。私の前の俳人協会千葉県支部の支部長である。その氏の八十年代から九十年代にかかる八年間の歩みの第六句集。その著者中では「自然と人間との係りを大切に、余命をあるがままに生き、そうした俳句を作りたい」と言う。卒寿を過ぎての覚悟である。句集『あるがまま』はその言葉通り、鍛え上げた観察眼で飾らずに自然と暮らしを見詰めた作品で構成されている。氏が余生の志として主唱されている「無為自然」の思いが、静かに一句一句に語り尽くされている。五歳若い私にはまだ至らぬ境地の句集である。

第6回 千葉県俳句大賞選考対象句集

番号	賞	句集名	著者	刊行年月日	刊行出版社	住所	所属結社
1		天 恵	伊 藤 隆	20. 7. 3	ふらんす堂	千葉市	いには
2	準賞	真水のように	下村 洋子	20. 8. 20	本阿弥書店	鎌ヶ谷市	遊牧
3		文 机	小 俣 たか子	20. 3. 10	ウエップ	我孫子市	清の会
4	大賞	こなひだ	高橋 道子	20. 5. 30	ふらんす堂	千葉市	鳴
5		木漏れ日	斎藤 じろう	20. 9. 10	本阿弥書店	松戸市	貂
6		中山皓雪句集	中山 皓雪	20. 3. 20	文學の森	船橋市	鳴
7	特別賞	あるがまま	小倉 英男	20. 11. 25	角川書店	船橋市	春嶺社
8	大賞	心 音	増田 善昭	20. 11. 15	玉藻社	千葉市	ホトギス・玉藻
9		花 辛 夷	案田 桂子	20. 4. 28	本阿弥書店	柏 市	遠矢
10		椰 の 木	小河原 清江	20. 7. 12	文學の森	大網白里市	沖



第六回千葉県俳句大賞贈賞式・新春交流会



〔贈賞式〕

第六回千葉県俳句大賞贈賞式は、令和三年二月十一日午後一時から千葉市市民会館に於て開催された。二度目となる新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言に開催を心配する声があったかもしれないが、安堵の声が会場から聞こえるような奉迎の幕開けであった。

司会は、秋尾敏理理事長。能村研三会長の挨拶の後、増成栗人副会長が選考過程を説明した。



受賞者記念撮影

前列左より 高橋道子氏（大賞）・増田善昭氏（大賞）
・下村洋子氏（準賞）
後列左より 増成副会長・能村会長・塩野谷副会長

今回は、十冊の句集を対象に審議された。大賞

は高橋道子・増田善昭の両氏、準賞は下村洋子氏、新設の特別賞には小倉英男氏とそれぞれ決定したと報告。贈られたクリスタル製の盾には受賞者ごとの句集に対する評価が刻まれており、その言葉を能村会長が読み上げながら手渡しされた。塩野谷仁副会長の講評に続き、準賞と特別賞の出版元である本阿弥書店の安田まどか氏、角川文化振興財団の石川一郎氏からお祝いの言葉をいただいた。俳人協会、現代俳句協会、日本伝統俳句協会の三協会の俳人たちが集い、競い、称え合う千葉県俳句大賞。受賞者各氏の喜びの声と誇らしげな表情に、贈賞式の会場はあたたかく包まれた。

（稗田寿明記）



受賞句集講評の
塩野谷仁副会長



能村会長の特選賞受賞の
前北かおる理事

〔新春交流会（文音）〕

令和三年の新春交流俳句会はコロナ禍のため文音句会とした。事前に募集した一人二句、延べ二六名、二五二句を基に二月十一日、俳句大賞贈賞式終了後、午後二時より俳句作家協会役員・理事と俳句大賞を受賞された高橋道子氏、増田善昭氏ほか数人が参加され俳句会を行った。

協会役員・理事の十句選が加藤事務局長、田所監事、北川理事により披露され、松本、小林、染



会場風景

谷、高橋、稗田、前北、三浦各理事により点盛が行われた。

成績発表は川合副理事長より一位から二十位までと、会長、副会長、理事長、副理事長、事務局長の特選賞が発表され、能村会長から入賞者に賞品が授与された。

なお、欠席の入賞者には郵送することとした。午後十六時、増成副会長の閉会の挨拶をもって会会は終了した。

また、全投句者には作品集を送付いたします。特選句及び入賞者の代表句は別記の通り。

(平岡育也記)



探 点 風 景

文音俳句作品集

【特選句】

能村研三会長特選

列柱の如きオルガンクリスマス

前北かおる

三枝かずを副会長特選

真中は神様の道銀杏散る

中嶋 律子

成増栗人副会長特選

たくましく風雪に耐え寒立馬

八川 信也

塩野谷仁副会長特選

浮寝鳥夢に見る空いかならむ

松尾 涼

秋尾敏理事長特選

ひらひらと何かの知らせ冬木立

沢田 寿一

川合憲子副理事長特選

白鳥の咽のあたりがまだ暮れぬ

山崎 政江

加藤峰子事務局長特選

山芋の根性曲りを宥め掘る

高橋富久江

入賞者と代表作品

(二句合計得点、○数字は順位、一句のみ記す)

① 白鳥の咽のあたりがまだ暮れぬ

14点 山崎 政江

② 枯蓮の骨の一徹水を刺す

14点 藤岡 貞夫

③ 水琴窟の音のなかより初蝶来

12点 谷本 元子

④ 鷹舞ふを見つけてよりの眼の青み

11点 能村 研三

⑤ 玄冬の岐れるところなき大河

11点 塩野谷 仁

⑥ 寄するより返す力の寒の波

10点 高橋 道子

⑦ 漱石忌男に髭といふ虚勢

9点 村上喜代子

⑧ 風花を手に受けてふとあたたかき

9点 染谷 卓

⑨ 杖つきし母より淑氣たまはりぬ

8点 市橋みどり

⑩ シリウスの青き吐息に湯さめせり

7点 佐久間由子

⑪ 山芋の根性曲りを宥め掘る

6点 高橋富久江

⑫ 修復を終へし山門初明かり

6点 中嶋 律子

⑬ 火の奥に昭和ちらちら夕焚火

6点 細根 葉

⑭ 大根穴残照入れて均しけり

6点 石井紀美子

⑮ 白鳥の声かうかうと雪を呼ぶ

6点 森 祐司

⑯ こだはりを捨つれば易し枯野原

6点 楠原 幹子

⑰ 冬木立蔭日向蔭日向蔭

6点 中村 世都

⑱ 木も藪も等しき色に野の枯るる

6点 増田 善昭

⑲ オルガンの星まはりだすクリスマス

5点 前北かおる

⑳ 終の花馥郁と漱石忌

5点 松尾 涼

(平岡育也記)

第八回千葉県俳句大賞

受賞者のことば

大賞

高橋道子

このたびは、栄えある千葉県俳句大賞を賜りまして、ありがとうございます。

昨年は世界中がコロナ禍に覆われましたが、その憂鬱な歳晩に受賞のお知らせをいただき、驚くとともに喜びがこみあげてまいりました。

句集の上梓を考えていたもののなかなか踏み切れず、ようやく出版に漕ぎつけたときは「鳴」入会後三十五年以上たっていました。この句集は、伊藤白潮師の選、井上信子「鳴」前代表の選を中心に、あとは我儘に自選したものです。その、全く遅ればせの第一句集を、選考委員の先生方が評価して下さいたことに、深く感謝申し上げます。

そしてまた、今は亡き白潮師、井上前代表のご指導をありがたく思わずにはいられません。殊に、二十五年以上も教えを受けた白潮師の、厳しくも味わい深い講評を懐かしく思い出します。

人生は生易しいものではなく、心には常に葛藤が起こります。けれども俳句を読み、作りして俳句に向き合っておりますと、何故か心が澄んでゆくような気がするのです。それはとりもなおさず、

季節を尊び、五七五の調べを楽しむ、俳句という文芸の力だと思われれます。

喜寿も過ぎようとしている私ですが、これからも日々の哀歓を俳句という器に落とし込んでゆきたいと思っております。

大賞

増田善昭

この度は第六回千葉県俳句大賞受賞の栄に浴すことができ、大変びっくりするとともに、能村会長を始め千葉県俳句作家協会の皆様から感謝申し上げます。対象となった句集『心音』は玉藻令和叢書の一環として発刊されたもので、俳誌「玉藻」に掲載されたこれまでの句からやく三百句を選んだものであります。

新型コロナウイルス流行のなか家に籠りがちな時間を利用してできたものであり、句集の刊行も十一月中旬で大賞の応募締め切りにぎりぎりであったので、三枝かずを先生からぜひ応募するようにとの一言がなければ今回の受賞はなかったもので本当に望外の喜びとなりました。

千葉県俳句作家協会の皆様とは年一回の俳句大会などで直接顔を合わせ、合同句集でも作品に接しておりますが、俳句に対する熱い心が感じられる素晴らしい会です。私は現在八十三歳で皆様方の情熱にはついて行けそうもありませんが、自分ながらの俳句を続けるつもりです。これまで通りゆるやかにお付き合い頂ければ大変有り難く存じます。近いうちにもしも俳句天国に行く事ができましたら、恩師加賀谷凡秋先生にさっそく大賞受賞を御報告申し上げたいと存じます。この度は本当に有難うございました。

準賞

下村洋子

この度、第一句集『真水のように』が思いがけず、第六回千葉県俳句大賞の「準賞」受賞の連絡を頂き、驚きと同時に感激しました。この句集に係わって下さった皆様に心よりお礼を申し上げます。

私の俳句歴は平成五年、現俳協千葉カルチャーの中島玄一郎師から始まり、平成十三年、八田木枯師の「森」及び「桜水会」を経て（お二人共既にご逝去）、平成二十五年、「遊牧」の同人に加えていただき、代表である塩野谷仁先生を師として現在に至っております。「俳句は短詩である」をモットーに、歴代の師の教えを糧にこれからも諦めず頑張りたいと思っております。本当にありがとうございます。

特別賞

小倉英男

〈特別賞〉をいただき身に余る光栄に存じます。選考委員の先生方に心からお礼を申しあげます。

『あるがまま』は、私の第六句集ですが、〈春嶺〉の主宰辞任後は、病気の妻を看護し、句会も月に七回担当しており、句集の発行は考えていませんでした。ところが、昨年四月にコロナ「緊急事態宣言」により、句会も休みとなり、妻も施設に入所して、自粛中ひたすら家事等をこなしても、多少余裕ができましたので、三カ月位かけて、句集を編みました。『あるがまま』は、コロナの自粛のお蔭で成った次第です。発行日は十一月二十五日、応募提出日ぎりぎりになりました。関係の皆様には、ご配慮いただき有難うございました。

『合同句集』第十集の

刊行に際して

能村 研三

昨秋、千葉県俳句作家協会の『合同句集』第十集が刊行された。この『合同句集』は本協会が五年毎に刊行するもので、第一集は昭和四十九年に柴田白葉女が編集委員長を務められ刊行されている。本集は平成二十七年に発行された第九集に続くもので、昭和、平成、そして令和と三時代目の刊行となる。

令和山水未生のひびき早月野に 高木 一恵
カパー表紙は、令和元年に行われた浦安吟行の時の旧江戸川河口付近の写真で飾られている。

今回の『合同句集』には一六二名のご参加をいただいた。皆様からの参加募集期間に折からの新型コロナウイルスの感染が拡大し、一回目の非常事態宣言が発令する異常事態の中であつたためか、会員の約四割の方の参加がなかつたことは残念であるが、稗田寿明さんをはじめ編集スタッフには大変なご苦労があつたことと感謝したい。

冬木の芽美しと語りて師や逝きぬ 古谷 誠司

平成二十七年まで本協会の会長を務められ、千葉県俳壇の発展に寄与された今留治子さんが平成

二十九年十二月に亡くなられた。

うつくしく猛りて野火の走る走る 増成 粟人

冬の鳥梢の光奪ひあふ 三枝かずを

遠野へ行きたし竹馬で行きたし 塩野谷 仁

持ち上げるための力学兜虫 秋尾 敏

本句集の「あとがき」にもあるように、令和元年には房総半島直撃の台風により、猛烈な暴風雨にさらされ建物等の損壊や倒木、農産物の被害、長期化した停電などは今でも記憶に新しいところである。

台風一過大停電の房の国 金子日出子

安房の地の停電の闇十三夜 東 國人

オリンピック開催の年として華やかな気持で迎えた令和二年は春から新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の出来事により私たちの日常生活は一変した。

七十路に受くる国難松の芯 金澤 恵子

パンデミックの地球換気す沈丁花 小河原清江

地球いまウイルス戦争春なのに 馬淵 津枝

「俳句は一つ土俵」という言葉がある。この『合同句集』に参加した方々はまさに「俳句は一つ土俵」に参集した人ばかりである。会員相互の一人一人の作風を知ることが出来る本協会の俳句作家の一大集成でもある。

(合同句集刊行委員会 委員長)

千葉県俳句作家協会

合同句集 第十集珠玉抄 (一)

会長 能村 研三 選

人生のヘアピンカーブ海鼠嘯む

相原 一枝

風のうしろ姿は海である

秋尾 敏

摘草や空どこまでも深くなる

秋本 紀子

安房の地の停電の闇十三夜

東 國人

微笑むとほほえみ返すさくらかな

新井 京子

木枯の吹き余したる昼の月

荒木 甫

フルート冷ゆバレエの手足から光

荒木 洋子

胸中に風の囁きよせ芹を摘む

石井紀美子

刺羽翔く潮鳴り響む神の峰

石崎 和夫

お岩木は雲のかよい路林檎挽く

石澤 はる

冬夕焼利根一水の燃え残る

石田 清

寒桜いくつになるも今が旬

石田きよし

回るほど音を消しゆく喧嘩独衆

石橋みちこ

雲形池ビルと紅葉のシンフォニー

磯部 香

総の地の一陣の風春めけり

伊藤 隆

山吹にをちの水音こちの風

伊東 泰子

交響詩モルダウ苺煮えて来し

井原 美鳥

道連れと即かず離れず梅林

岩瀬由美子

(次号へ続く)

本句集、残部が多少ございます。

ご希望の方は左記事務局までお申し出下さい。

一冊二千円にてお分け致します。

〒285-0001

佐倉市山崎一六六一-二二二

合同句集刊行委員会事務局 稗田 寿明

TEL 〇九〇一七二〇八一-二八〇二

千葉県俳壇ニユース

千葉県現代俳句協会

秋の吟行会 潮騒パーク「稲毛海浜公園」

令和二年十月二十九日(木)、稲毛記念館にて開催。参加者五十三名、囀目二句。コロナ禍を避け選句迄で解散。結果は後日全員に郵送された。

【一〇十五位入賞者作品】(二句のうち一句)

- ① 足跡は記憶の深さなぎさ秋 黒澤 雅代
- ② そつと置く檸檬水平線うごく 高橋 健文
- ③ 花時計晩年ゆつくり見えてくる 岡田 淑子
- ④ 花野より男が押せるペビーカー 星野 一恵
- ⑤ 色鳥の水を濁さず翔ちにけり 宮下 奈緒
- ⑥ 日時計のうすれし目盛冬に入る 保坂 末子
- ⑦ 夜は星を曳く底曳船に木の実 石井紀美子
- ⑧ 山茶花や海見ゆるまで歩きけり 阿部さくら
- ⑨ 晩秋の浜にて我も真砂なる 下村 洋子
- ⑩ 秋思裏返す波音は平ら 松本 千花
- ⑪ 雁来紅多少の気取りと気の強さ 加藤 法子
- ⑫ 向日葵のたねや平和な言葉たち 高木 一恵
- ⑬ 深呼吸吸ひそとわれもす十月桜 山崎 幸子
- ⑭ 致死量の愛はないけど秋薔薇 羽村美和子
- ⑮ 脚たたむ釣瓶落しのパイプ椅子 里美 さち

(現代俳句千葉 一三九号より)

柏市俳句連盟文化祭俳句大会(通信句会)

柏市俳句連盟主催の文化祭俳句大会が柏市文化連盟の後援を得て令和二年秋季通信句会として執り行われた。参加者は一四六名であった。

入賞者(互選二句合点)代表句(○内は順位)

- ① 秋の雲われも漂ふものうち 茶谷 静子
 - ② 秋ざくらもう使わぬ診察券 保坂 末子
 - ③ 落日と色をひとつに木守柿 吉沢美佐枝
 - ④ オカリナの穴それぞれに小さき秋 石山 幸月
 - ⑤ 鯨高く釣り上げられて空を知る 松本 祐一
 - ⑥ ポケットの木の实散らして逆上り 加藤 峰子
 - ⑦ 句読点なき月日経て神無月 泰江 安仁
 - ⑧ 缶詰のばかんと開いて秋立てり 星野 一恵
 - ⑨ 芒買ひ都会の人となりけり 鈴木 馨子
 - ⑩ 野良仕事案山子を運ぶだけの役 小宮 富子
- (柏俳句連盟 茶谷静子報)

第七十三回 館山市俳句大会

館山市の文化祭行事がコロナ禍のため全て中止となりましたが、館山市俳句連盟(庄司風樹会長)は独自に通信俳句大会を実施しました。参加者は一八名、応募句数三五四句でした。

一 句高得点の十人入賞。同点は選者特選数により順位をつけました。(○内は順位)

- ① 散るものに咲き繼ぐものに秋惜しむ 鈴木 滋子
- ② 秋暑し祈る形に手を洗ひ 森 とし子
- ③ 燃ゆるごと余生きたし髪洗ふ 榑引 明江
- ④ 秋の空風が忘れし雲ひとつ 上野寿栄子

令和二年度 市川市芸術祭

第七十二回市川市市民俳句大会

日時 令和二年十一月(紙上大会)
共催 市川市・市川市俳句協会
四季雑詠、一組二句。出句四八二句

上位入賞作品(○内は順位)

- ① それからの母の強さよ終戦日 大橋 忍
- ② 流されず抗ひもせず山椒魚 楠原 幹子
- ③ 決闘に割つて入りたる菊師かな 千田 百里
- ④ 歩けとは生きよの言葉鴉の声 金田 誠子
- ⑤ 灯されて円居の見ゆる網戸かな 原 瞳子
- ⑥ 糸蜻蛉水の底まで日の射して 中村 世都
- ⑦ 白寿祝ぐ枯れあぢさゐに残る色 笠井 敦子
- ⑧ 秋風鈴風に遅れて鳴りにけり 湯浅 康右
- ⑨ コロナ禍は歴史の継目梨をむく 中山 皓雪
- ⑩ ママチャリで通ふ看護科秋うらら 広海あぐり
- ⑪ 胡桃割る乾いた音を散らかして 成宮紀代子
- ⑫ 破蓮のやすらふ水の小暗がり 柴崎 英子
- ⑬ 恋終はる一番赤い林檎買ふ 吉田 良江
- ⑭ 鱗雲空に大波小波あり 能美昌二郎
- ⑮ ぎんなんの成る木ならぬ木子ども欲し 有田川あき

(楠原幹子記)

伊藤よし江 小柴 敏洋 古居 芳恵 里村 梨邨 伊藤 茜音 藤井 昌子 (石崎和夫報)

結社賞

令和二年度「好日三賞」「年度賞」

好日賞 折原真理恵

鉄塔に雲ひつかかる夏隣

青雲賞 三田紀子

不揃ひも植ゑて青田となりにけり

白雲賞 伊藤昌子

水族館出て春宵へ泳ぎだす

年度賞 石井 稔

半眼のイグアナ春月は赤い

〔好日〕令和二年十一月号より

令和二年度「ろんど」各賞

ろんど賞 尾形誠山

鳩時計の小さき窓より春立ちぬ

誠山

新人賞 能松祐子

一喜一憂均してけふの水を打つ

祐子

〔ろんど〕一月号より

令和三年沖・結社賞

沖賞(第四十九回) 成宮紀代子

大刀魚の竹光の照り述べらるる

珊瑚賞(第四十三回) 齊藤 實

実石榴を割れば百鬼の目玉あり

新人奨励賞(第四十九回) 宮下桂子・小坂尚子

芽柳のふりそそぎくる浅みどり

三極の泡立つやうに咲きにけり

〔沖〕一月号より

尚子

ひろば

県内吟行地紹介

地球誕生のロマンにひたる

チバニアン紀行

市原市を南北に流れる養老川の上流・田刈地(たがち)先の崖に七十七万年前地磁気逆転の時代を示す地層が昨年一月、地球史に残るチバニアン(千葉時代)として国際的に認められました。

館山自動車道市原インターから大多喜街道に牛久米沢交叉点から右折清澄養老ラインに入り二十分程です。小湊線は月崎駅下車が便利です。現地田刈にはチバニアンビジターセンターがあり資料の展示やガイドによる説明があります。見学の地層は養老川沿いの崖ですので雨天続

きの場合は増水しますから近づくのは困難です。また滑りやすいので履物には御注意下さい。

人類の出現が五十年前ですので、この時代を生き抜いて来た事は確かです。南北の方位が逆転すると地球を取り巻く磁場が弱まり磁気嵐が発生。磁石の使用が出来なくなります。更に通信・放送・航空管制システム等電波障害で機能せず、渡り鳥・鳩・イルカ等方位を感知することが出来なくなります。人体には太陽や宇宙から飛来するプラズマ(電子)や高エネルギーの放射線等を直接浴び死の恐怖に陥ります。一説によると東京の空にオーロラが出現するとか。

そんな古代のロマンを感じつつお出かけ下さい。(音信俳句会会長 白鳥紅星子記)

会員著書紹介

●合同句集『かずさ十句集』

かずさホトトギス会 編

三枝かずを当協会副会長が中心となり活動し、毎年一人十句収載の合同句集を刊行。本誌が第五十三集となった。当協会会員の作品を紹介。

冬の鳥梢の光奪ひあふ

三枝かずを

囀の止まらぬ杜の暗さかな

伯耆部喜久男

どの枝も日の当たりたる大枯木

増田 善昭

(令和2年10月発行・かずさホトトギス)

●合同句集『俳句の杜』

本阿弥書店 編

十二人の作家それぞれの自選百句とエッセーを収録した二六〇頁余の精選アンソロジー。

当協会会員は、「遊牧」同人の小林実氏のみ。

氏は千葉県現代俳句協会幹事。八千代市在住。

本日晴天陽炎になつてゐる

夕焼けの神田西口獣道

銀漢に夜の電車が濡れて着く

(令和2年10月発行・本阿弥書店)

●句集『迷路』

中山和子 著

「初蝶」代表。俳人協会会員、同千葉県支部幹事。千葉市に在住。本集は第二句集で三四一句を収載。句集『分別顔』、エッセイ集『季語の思い出』。

幾度か戻りて梅の香の迷路

もう午後の来てゐるひびな飾りかな

自転車泳がし茅花流しかな

(令和2年11月発行・竹中印刷)

●随筆『四季と折り合う』 佐藤映二 著

「岳」同人会長、当協合理事の随筆集。二頁に一篇の短篇三十九篇を収載。凝縮された世界が広がる珠玉の一集である。宮沢賢治研究会顧問、日本文藝家協会会員、現代俳句協会賛助会員。

福島県生れ、松戸市在住。句集『羅須地人』『わが海図・賢治』『葛根湯』、評論集他。

(令和2年11月発行・文治堂書店)

創刊50周年記念

●『沖俳句選集 IX』 沖俳句会 編

能村研三主宰の「沖」は昨年創刊五十周年の節目を迎え、本集はその記念行事の一環として刊行された第九集である。参加者三百名、同誌の発展ぶりを窺わせる見事なアンソロジーである。

当協会会員の一部分の作品を紹介する。

- 暁闇の冷えを纏ひて神鷲翔つ 能村 研三
- 登四郎先生みな来ました石路日和 吉田 政江
- 煉切に金の藜ある花ぐもり 田所 節子
- 満開のさくら樹液の熱からむ 楠原 幹子
- 針穴は光の出口針供養 細川 洋子
- 滴りに一滴つつの持ち時間 渡部 節郎
- 流れ星神のおはじきやも知れず 栗原 公子
- 江ノ電は光の小篋春近し 佐々木よし子
- 太陽となるまで磨く冬林檎 大沢美智子
- 寝返りてわが身海めく夜寒かな 内山 花葉
- そこここに昭和の段差家籠 井原 美鳥
- 一湾は天の手鏡鳥帰る 石崎 和夫
- ひとひらを追ふひとひらの花を追ふ 稗田 寿明
- 冬晴やランナーに振る大漁旗 伊藤よし江
- 揚羽蝶小児奈の影のやうに発つ 澤田 英紀

(令和2年10月発行・沖発行所)

千葉県俳句作家協会運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口座

郵便振替 〇〇一四〇一〇七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせて頂きます。

基金御礼 (令和三年一月十五日現在)

- 野口 養子 楠原 幹子 歌代 美遥
 - 鎌田 光恵 小形 博子 徳吉洋二郎
 - 小河原清江 阿部理恵子 藤田 静
- (以上 十八口、三万六千円)

受贈誌より

- あびこ (三五二号) 猫じやらし遠き筑波をひた招く 染谷 卓
- いには (二月号) 庭の木の密を払ひぬ冬はじめ 村上喜代子
- 浮果 (二月号) 竜神に日のめぐり来し松飾 大木さつき
- 沖 (二月号) 省略の過ぎしと思ふ裸木よ 能村 研三
- 音信 (二月号) 紅白の葉牡丹にある銀河系 白鳥紅星子
- かずさホトトギス (六一八号) この庭の萩枯れてよりつつましく 三枝かずき

(次号へ続く)

新入会員一句

- 石斛の骨抱く大地開戦日 西隈 康代
- 生業を継ぐ子が帰り凍ゆるむ 小宮 富子
- 富士山とどこまでも行く枯野かな 稲多たえ子
- 手にひびく子の返球や風光る 金井 照子
- 火繩銃伝はる島や仏桑花 弦巻喜久子
- モーツアルトの忌日溜りのシクラメン 山岸 明子

事務局日誌

◆第四回理事会

(文書理事会により全理事に次第及び資料郵送) 日時 令和2年11月21日(土) 議事 1 第62回千葉県俳句大会報告及び反省

- 2 令和2年度新春交流会について
- 3 第6回千葉県俳句大賞について
- 4 第35回千葉県俳句作家協会賞について
- 5 合同句集第10集について
- 6 会報「真木」一九六号について
- 7 その他、事務局報告

会員異動

- 新会員 西隈 康代 (柏市) 小宮 富子 (柏市)
 - 稲多たえ子 (柏市) 金井 照子 (柏市)
 - 弦巻喜久子 (柏市) 山岸 明子 (松戸市)
 - 謹計 明石春潮子 井上 信子
- 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

・俳句大賞受賞の皆様誠におめでとうございます。次号は協会賞の発表になります。お楽しみに。・能村会長選による『合同句集』第十集珠玉抄は次号に引き続き掲載いたします。(紀美子)

月刊
夏目
のびやかに自分史としての俳句を作る
主宰 望月百代

誌代(送料共) 半年 六,〇〇〇円
一年 一〇,〇〇〇円

〒270-0034 松戸市新松戸七-1-23
夏目発行所
FAX 047-345-6351
振替 〇〇一三〇八一-一〇九六

月刊俳誌
沖
俳句ルネッサンス
主宰 能村 研三
新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円
見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊 50周年
軸
軸俳句会
主宰 秋尾 敏

〒278-0005
野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
84円切手3枚で見本誌贈呈

俳誌 **あびこ**
誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 〇四一七二八一-四四四一
郵振替 〇〇一〇〇一四一八九〇七四
あびこ俳句同好会

主宰 染谷 卓

一度きりの今を楽しむ
いには
主宰 村上喜代子
新会員歓迎・添削指導します。

誌代1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円
— いには俳句会 —

〒276-0036
千葉県八千代市高津 390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌
遊牧
代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七-1-2307
遊牧俳句会
電話 〇四七三三六一〇八一
FAX 〇四七三二五七七三八

歩いて俳句
あま
主宰 飯田 晴

創刊 鳥居三朗
師系 今井杏太郎

〒276-0023 八千代市勝田台一-1-1
雲発行所
D1-0005
電話 & FAX 〇四七-四八七-七一二七

心を満たす俳句
鴻
「鴻」俳句会
主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二-四-1六谷口方
電話 〇四七三三六三-四五〇八
FAX 〇四七三三六六-五一一〇

◆誌代/年間 一〇,〇〇〇円



人間の総量を
鳴
代表 高橋道子
創刊 田中午次郎
再刊 伊藤白潮

誌代 一ヶ月 一,〇〇〇円(送料共)
一年 一〇,〇〇〇円

〒277-0827 柏市松葉町四-七-1三〇五
荒木甫方 鳴発行所
電話 〇四七三三三三-七六三二
振替 〇〇一八〇四-六一五七二二
<http://shigei-haikukai.com/>